

山梨県若手研究者奨励事業 研究成果概要書

所属機関名 山梨英和大学 人間文化学部

職名・氏名 三井 さや花 印

1 研究テーマ

多文化共生社会における在留外国人に対する日本語教育及び情報伝達への支援

2 研究の目的

山梨県の地域日本語教育及び多文化共生社会の実現に寄与するため、(1) 日本語の数量表現を中心とした、在留外国人が日本語を使用する際のミスコミュニケーションの解消、および(2) 外国籍児童生徒の保護者向け通知文書へのアクションアイコンの付加による情報伝達支援を目的とし、研究を行う。詳細は以下の通り。

(1) 日本語の数量表現を中心とした、在留外国人が日本語を使用する際のミスコミュニケーションの解消

筆者はこれまで日本語の数量表現を研究テーマとし、外国人日本語学習者の作文に起こる誤用や非用を考察してきた。その中で、「数年」や「数人」など、複数を表す接頭辞「数N」の数のイメージが日本語母語話者と日本語学習者で大きく違う可能性に気がついた。本研究では、アンケート調査を通じて、実際にどれくらいのイメージのギャップが生じているかを明らかにし、日本語教育に活かす方法を模索する。地域日本語教育にこの観点を盛り込むことで、外国籍住民と日本人のミスコミュニケーションを防ぐ。

(2) 外国籍児童生徒の保護者向け通知文書へのアクションアイコンの付加による情報伝達支援

多文化共生社会の実現に向けて、日本語での情報発信のあり方も検討が必要である。筆者はこれまで、学校における保護者向け通知文書(お便り)に、内容をわかりやすくするためのピクトグラム(「アクションアイコン」と名付けた)を付加する研究を行ってきた。この研究をさらに進め、アクションアイコンが日本人保護者および外国人保護者双方の情報理解に有用であるかの調査を行い、アイコンの改良を行っていく。これにより、学校現場での外国籍および日本人保護者へのスムーズな情報伝達が期待される。

3 研究の方法

(1) 日本語の数量表現を中心とした、在留外国人が日本語を使用する際のミスコミュニケーションの解消

先行研究やパイロット調査から、接頭辞「数N」(「数年」や「数人」など)の理解に、主に中国人日本語学習者と日本語母語話者の間にずれが生じている可能性が明らかになった。しかし、接頭辞「数N」の中の、どのような語彙や文脈でずれが発生するか

留意事項

- ① 3枚程度で作成してください。
- ② 特許の出願中等の理由により、一定期間公表を見合わせる必要がある箇所がある場合であっても、所定の期日までに公表可能な範囲で作成・提出してください。当該箇所については、後日公表可能となった際に追記して再提出してください。

は明らかになっていない。そこで、中国人日本語学習者と日本語母語話者に語彙や文脈を設定したアンケート調査を行い、そのずれをあぶりだしていく。また、非漢字圏の日本語学習者にも同様のアンケート調査を実施できるかを検討する。

(2) 外国籍児童生徒の保護者向け通知文書へのアクションアイコンの付加による情報伝達支援

学校からの通知文書の読解は外国籍保護者にとって困難であるが、日本語母語話者にとっても負担となっている。そこで、筆者らが開発した「アクションアイコン」が日本人保護者にどう受け取られるか、アイコンに改善点があるか等のインタビュー調査を行う。また、外国籍保護者にもアイコンがどう評価されるか、改善点があるか等のインタビュー調査を行い、調査結果を反映させながら、アクションアイコンの改良を行っていく。

4 研究の成果

(1) 日本語の数量表現を中心とした、在留外国人が日本語を使用する際のミスコミュニケーションの解消

日本語の複数表現の一つである接頭辞「数 N」について、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」から使用頻度の高い上位 5 つ「数年」「数日」「数人」「数カ月」「数回」を抽出し、コーパスでの使用状況を参考にした上で、質問文を作成した。パイロット調査として、質問文上の「数 N」にどんな数字をイメージするかについて、中国人日本語学習者と日本語母語話者各 20 人にアンケート調査を行った。このパイロット調査では、平均値には有意差が出なかったが、中国人学習者の方が明らかに大きな数字を答えた設問があった。この結果は、2023 年 9 月に行われた「第 54 回中国語話者のための日本語教育研究会」で発表し、最大値平均と最小値平均では有意差がでるのではないかと等、有益な助言を得た。その後、研究会発表での助言をふまえて、アンケート質問文を修正したり追加したりし、本調査を行った。2024 年 1 月に中国人日本語学習者 60 名、日本語母語話者 62 名のデータがそろったため、2024 年 2 月～3 月にかけてデータ整理と分析を行い、平均値でも有意差の設問があることがわかった。

2024 年 3 月末現在、さまざまな検定方法による分析を試行しているところであるが、「数年前」「数日」「年に数回」といった項目では、日本語母語話者より中国人日本語学習者の方が有意に大きな数字をイメージする可能性が示された。例えば、ある文中の「数年前」という表現で、日本人は平均 3.77 年をイメージするのに対し、中国人は平均 6.28 年をイメージし、有意に大きな数字であることがわかっている。一方で、「数カ月前」という表現では、中国人（平均 4.23）の方が日本人（平均 3.96）よりイメージする数字の平均値は高いものの、有意差はでなかった。これは、1 年の上限が 12 カ月で、数値の天井が限定されているため、差が開かなかったと考えられる。詳細は分析中だが、今後この結果を論文にまとめ、2024 年中に学会誌へ投稿を行う予定である。

(2) 外国籍児童生徒の保護者向け通知文書へのアクションアイコンの付加による情報伝達支援

筆者らが開発した初期の「アクションアイコン」の種類について、その妥当性を検証

留意事項

- ① 3 枚程度で作成してください。
- ② 特許の出願中等の理由により、一定期間公表を見合わせる必要がある箇所がある場合であっても、所定の期日までに公表可能な範囲で作成・提出してください。当該箇所については、後日公表可能となった際に追記して再提出してください。

するため、追加で小学校 2 校の通知文書 163 通を共同研究者と目視で確認した。その後 8 種類の「アクションアイコン（第 2 版）」を開発し、日本人保護者 3 名にインタビュー調査を行った。改定した「アクションアイコン（第 2 版）」は日本人保護者全員から「わかりやすい」という肯定的な評価を得た。また、アイコンの視認性に関する助言を得た。この結果は、2023 年 9 月に行われた「2023 年秋季一橋日本語教育研究会」にて口頭発表を行った。発表ではアイコン改良にむけての助言を得た。さらに、アイコン以外の情報伝達要素にも注意を向けるべきとの指摘があった。ここまでの成果は、山梨大学教育統括機構紀要に投稿し、現在印刷中である。

研究会発表の助言を受け、アイコンの改良を進めると同時に、「情報伝達の最大公約数」についての観点も検討を開始した。先行研究の観点を学校の通知文書に援用したことで、アイコンなどの視覚情報に加えて、情報の提示順やレイアウト、情報の取捨選択にも配慮をすべきだということがわかった。この結果は、2024 年 3 月に行われた「2024 年日本教育工学会春季全国大会」で発表した。当該発表では、多くの方から好意的な評価を得られ、愛媛県にある認定こども園の経営者から研究協力の申し出があった。暫定版のアイコンでも使用を開始したいとのことで、試験的に、当該こども園の外国籍（ナイジェリアおよびジャマイカ人）保護者にアイコンの評価をしてもらった。筆者も現在、外国籍保護者へ「アクションアイコン（第 2.5 版）」についてのインタビュー調査を行っている。2024 年 3 月末日までに、山梨県内の外国籍児童トップ 5 に入っている中国・フィリピン・ペルー人の保護者（各 1 名）にインタビュー調査を行い、アイコン改定のための助言を得ている。今後、外国籍保護者のインタビューを追加し、結果を集約し、第 3 版のアクションアイコンの開発につなげていく。論文化も検討中である。

5 今後の展望

(1) について

アンケート調査の分析をすすめ、論文投稿を行う。「数 N」のアンケート調査は、現在インドネシアの大学の協力を得て、同様の質問項目でインドネシア人日本語学習者のデータもとっている。また、ベトナムの大学でもアンケート調査が実施可能であり、中国以外の日本語学習者とも比較できるように検討中である。また、接頭辞以外の数量表現（「若干」「何人か」「いくつか」など）についても調査を行うか検討していく。

(2) について

アクションアイコンおよび情報伝達の工夫については、研究協力者の文書で試験運用中であり、外国籍保護者のインタビュー結果と共に論文化を考えている。試験運用やインタビュー調査の結果を踏まえ、「アクションアイコン」の最終版を確定し、ウェブ上で無償公開、学校（幼稚園）現場で広く使用してもらうことを目指す。

6 研究成果の発信方法（予定を含む）

(1) について

【研究会発表】三井さや花（2023）「接頭辞「数 N」に関する中国語母語話者と日本語母

留意事項

- ① 3 枚程度で作成してください。
- ② 特許の出願中等の理由により、一定期間公表を見合わせる必要がある箇所がある場合であっても、所定の期日までに公表可能な範囲で作成・提出してください。当該箇所については、後日公表可能となった際に追記して再提出してください。

語話者のイメージのずれ」第 54 回中国語話者のための日本語教育研究会 (2023. 9)
(予定) 現在統計をかけている本調査の結果は、2024 年中に「中国語話者のための日本語教育研究会」研究会誌または「日本語教育学会」学会誌に論文を投稿予定

(2) について

【研究会発表】三井さや花 (2023) 「外国人の保護者向け通知文書における情報伝達補助の試み —「アクションアイコン」の改良と日本人保護者の評価—」2023 年秋季一橋日本語教育研究会 口頭発表 (2023. 9)

【論文投稿】三井さや花 (印刷中) 「多文化共生社会における小学校通知文書の情報伝達補助の試み—「アクションアイコン」の改定と日本人保護者の評価—」山梨大学教育統括機構紀要

【学会発表】三井さや花, 三井一希 (2024) 「小学校の通知文書における「情報伝達の最大公約数」に関する一考察」2024 年日本教育工学会春季全国大会 口頭発表 (2024. 3)

(予定) 外国籍保護者へのインタビュー調査の結果と改訂版のアクションアイコンについては、2024 年度中に「日本教育工学会」学会誌に論文を投稿予定

※発表や論文文化の際は、山梨県若手研究者奨励事業費補助金を受けた旨、資料に明記している。

留意事項

- ① 3 枚程度で作成してください。
- ② 特許の出願中等の理由により、一定期間公表を見合わせる必要がある箇所がある場合であっても、所定の期日までに公表可能な範囲で作成・提出してください。当該箇所については、後日公表可能となった際に追記して再提出してください。